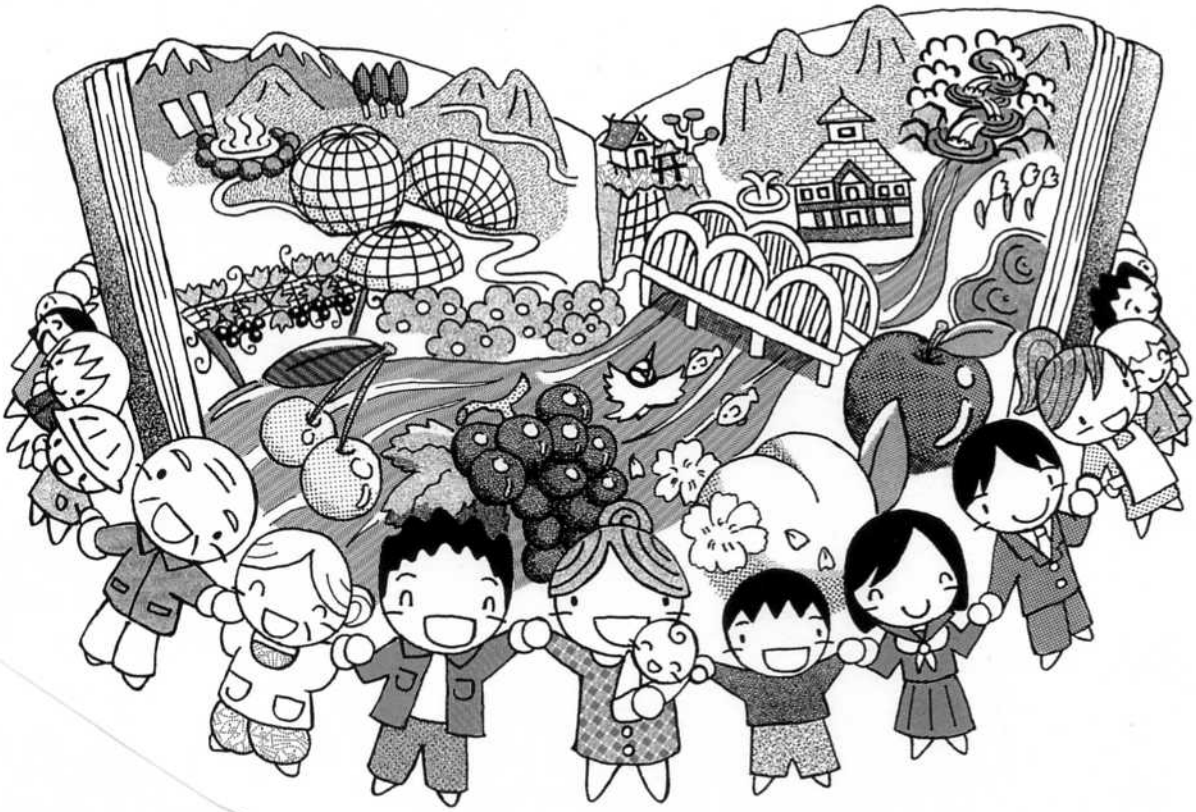
読書コミュニティ山梨市

～心豊かな子どもを育てる読書プラン～



平成20月6月

山梨市教育委員会

「山梨市子ども読書活動推進計画」策定によせて

子どもの読書離れが指摘される中で、国では、21 世紀を担う子どもたちが、読書を通じて健やかに成長することを目的に 2001 年 12 月施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、2002 年 8 月に初めて「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」をおおむね 5 年間として策定しました。

この基本計画が策定されたことで、子どもたちの読書環境も大きく変化し、2006 年度末までに全都道府県が、「子どもの読書活動推進計画」を策定、山梨県においても 2005 年 3 月に策定がなされました。

山梨市においては、2006 年度、文部科学省より 3 カ年間「学校図書館支援センター推進事業」の研究委嘱を受け、市内小学校に学校図書館協力員 10 名を配置するとともに、学校図書館の地域開放をめざすため、小学校の耐震化・大規模改造工事にあわせ、最初に、後屋敷小学校を土曜日に、親子で図書館を利用できるよう 1 階に図書館を移転し、親子による読書活動を推進しております。

2007 年 3 月には、市内の子どもたちが積極的に読書に親しみ、生涯にわたり読書習慣を身につけることができるよう、山梨市社会教育委員の会より、「大人も子どもも読書を楽しむ“ まちづくり ”」と題して、「山梨市子ども読書活動推進計画」策定への意見書が、市教育委員会に提出されたのを受け、2007 年 9 月に「山梨市子ども読書活動推進計画」策定委員会を設立し、中村照人市長から策定委員に委嘱状が交付され、2008 年 3 月策定委員会委員の皆さんの、読書活動推進に対する熱き思いにより、検討に検討を重ね「読書コミュニティ　山梨市‐心豊かな子どもを育てる読書プラン‐」の策定に向けて努力されておりますことに、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

今後、策定されました「山梨市子ども読書活動推進計画」を推進することによって、山梨市の未来を担うすべての子どもたちが、豊かなことばに触れ、それを学び、喜びを実感し、想像力をはぐくみ、自主的に読書を行うことができるよう、家庭、地域、学校等と連携を図りながら、積極的に子どもの読書活動に取り組んでまいります。

なお、国では 2008 年 3 月 11 日「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の改定がなされ、今後、約 5 年間の目標として、市町村の読書推進計画の策定率を、2006 年度の 24%から 50%以上に引き上げるとともに、学校と家庭の望ましいあり方として、学校では、子どもの読解力の向上と、家庭では、子どもの読書離れを防ぐためにも、読書の大切さを、保護者に広く理解されることが強調されております。

山梨市においては、今回の改定の趣旨を踏まえて、子どもの読書環境の充実を図り、市民挙って「読書の都市・山梨市」の実現に努力したいと思います。

2008 年 6 月

山梨市教育委員会
教育長　堀内　邦満

はじめに

読書によって自分の人生を切りひらいたという人が多くいます。子どものころの読書も自分をつくりあげる基となったり、職業を決定づけられたという話も聞きます。子どものころの体験が読書好きにもします。このように読書は、人間が生きていく上での大きな拡がりとなり指針となるものです。本を読み想像の世界を拡げ、創造するもとをつくりあげることにつながるのです。読書による感動は、子どもたちの精神生活を豊かにし人間形成にも寄与します。

しかし、現在の子どもを取り巻く社会は、テレビ・テレビゲーム・携帯電話・インターネット等の普及により活字離れ、読書離れが進んでいます。また、少子化・核家族化などにより望ましい地域環境がくずれ、知育に偏った見方などによる塾や習い事などで多忙さが増し、これも活字離れ、読書離れにつながると考えられます。この現象は、ひとえに精神生活の涵養がなおざりにされ、子どもたちの健やかな発達が疎外されてきているように思えます。

国でも、県でもそれらのことに鑑み、子どもの読書活動の推進を施策として打ち出しています。そんな中で、山梨市では平成 18 年度に山梨市子ども議会の開催・山梨市子ども未来憲章策定委員会の手により、他市町村に先駆けて「山梨市子ども未来憲章」の制定など、子どもの健全育成を重要視しています。

山梨市子ども未来憲章

1、 一つしかない尊い命を大切にし、生きる喜びを感じながら、心と体をきたえ、たくましく生きていきます。
2、 思いやりの心を持ち、一人一人の個性を認め合い、みんなで協力し助けあっていきます。
3、 まっすぐな心で、知性をみがき、創造力を高め、夢と希望を持って、明るい未来をきりひらいていきます。
4、 広い心を持ち、さまざまな人々との交流を大切にし、笑顔の絶えない人間関係を築いていきます。
5、 かけがえのない故郷の自然と文化を守り、限りある資源を大切にし、美しいまちをつくっていきます。

子ども未来憲章のもつ理念と、読書活動推進の希求するものとは表裏をなすものです。山梨市において読書活動推進計画の策定は、子ども未来憲章をひろげるためにも、子どもの読書離れをとりもどし、すべての子どもがよりよく生きる人間となってもらうためにも必要です。そして、このことは大人の責任であり急務であると思います。

目　　次

「山梨市子ども読書活動推進計画」策定によせて
はじめに

第１章　子ども読書活動推進計画策定について
1　子ども読書活動推進の意義 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2　わが市の子ども読書活動の現状と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（計画策定の背景、趣旨）
3　計画の基本方針と計画の期間、計画のイメージ・・・・・・・・・・・・ 2

第２章　子ども読書活動推進のための方策（整備・充実を含む）
1　家庭・地域における子ども読書活動の推進・・・・・・・・・・・・・ 4
2　幼稚園・保育園・児童センター等における子ども読書活動の推進・・ 5
3　学校における子ども読書活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
4　市立図書館における子ども読書活動の推進　・・・・・・・・・・・・ 7

第３章　推進体制の整備充実
1　諸条件の整備
（1）職員体制の充実 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
（2）財政上の措置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
2　広報・啓発活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
3　関係機関との連携・協力 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

参考資料
1　子どもの読書活動の推進に関する法律 ・・・・・・・・・・・・・・・ 12
2　山梨市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱 ・・・・・・・ 15
3　山梨市子ども読書活動推進計画策定委員名簿 ・・・・・・・・・・・ 16
4　活動施設一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
5　学校図書館支援センターによる学校読書傾向調査結果 ・・・・・・ 18

第１章　子ども読書活動推進計画策定について

1　子ども読書活動推進の意義

現在の日本では、物の豊かさを求めるあまり、心の貧しさに起因し、悲惨な事件の増加や児童・生徒の学力低下など各種問題が発生しています。国においては読書の持つ計り知れない価値を認識し、平成 12 年を「子ども読書年］と決めました。平成 13 年には「子どもの読書活動の推進に関する法律」において、子どもの読書活動は子どもが言葉を学び感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をよりよく生きていく力を身につける上で欠くことのできないものと規定されています。さらに、平成 14 年にはこの法律に基づいた「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定されました。また、平成 17 年には「文字・活字文化振興法」も制定されました。

子どもたちは読書により、言葉を学び、表現力を高め、知識や情報を得るだけでなく、感動や癒しによって生きる力を与えられるのです。乳幼児からの読み聞かせは、読書の楽しさを知る上で極めて大切です。小学生では、やさしい童話や物語等に親しみ、次第に目的に応じた図書を選択することができるようになります。

小学校段階で、子どもの読書に対する興味や関心を高めることが必要です。読む力の育成と人間形成を目指す読書を、学校現場はもちろん家庭・行政関係者等が一体となって推進していくことは大きな意義があります。中学・高校では、読むことが強化され読書の範囲が広がり、読書活動の充実と書く力の育成も期待できます。

「山梨市子ども未来憲章］の中には子どもの未来像が描かれています。その 3 項目には「まっすぐな心で知性をみがき、創造力を高め、夢と希望を持って、明るい未来をきりひらいていきます。」とあります。さらに、1 項目には「命を大切にする」2 項目には「思いやりの心を持つ」とも書かれています。そして、5 項目全部の中に子どもの未来像が象徴されています。この子ども未来憲章を広げるのは家庭であり、学校であり、地域社会であり子どもたち自身です。子ども未来憲章は人間を育てあげる教育の理念です。このことの実現にもっとも有効な手段は、子どもの読書推進だと考えられます。

「三つ子の魂百まで」とか「鉄は熱いうちに打て」とか言われています。情報社会の進展、情報メディアの急速な発達の中で活字離れが進む今、子どもたちの読書への意欲を喚起し、現状の生活から抜け出しすべての子どもが読書に慣れ親しみ、将来にわたってたくましく生きる力を備えさせてやることが大切です。それこそが山梨市で掲げている「子ども未来憲章」へのアプローチに大きなステップとなるものです。大人の責任として一日も早くその環境を整えてやりたいものです。

2　わが市の子ども読書活動の現状と課題

子どもを取り巻く現状が大きく変化したことによる読書離れ・活字離れが言われて久しくなります。そんな中で山梨市にも、最近「子どもに読書をさせなければ」という機運が高まりつつあります。その一つとして、学校図書館支援センターを設置し、学校に協力員を配置したり、(これは3年計画の文部科学省支援事業)また、特定の学校ではありますが土曜日の学校図書館開放を実施しています。その他、「山梨市社会教育委員の会」は、今こそ読書をと「大人も子どもも読書を楽しむ“まちづくり”」の意見書を教育委員会へ提出しています。それによって、市全体が読書をしようという機運が盛り上がってきています。

本市の子どもたちの読書の実態を知るために、平成18年度から学校図書館支援センターが、市内の全小学生を対象に読書アンケートを実施し、19 年度は、追跡調査として中学 1 年生にも行いました。アンケートの結果から本市の子どもたちは､「読書が好き･どちらかというと好き」との答えがすべての学年で80%～94%を占め、読書に大変関心を持っていることが分かります。

全国学校図書館協議会が毎日新聞社と共同で毎年 6 月に実施している「学校読書調査」2007 年版の結果(4 年生～)から見ると、各学年とも 1 カ月の読書平均冊数が、4年生は2.3冊、5年生は2.7冊、6年生は0.9冊、中学1年生は0.9冊とどの学年も全国平均を上回っています。また、不読率については、4年生は1.5%、5年生は1.6%、6年生は4.3%、中学1年生は3.3%と全国平均を下回り、喜ばしい結果であります。

これを山梨県立文学館が2004年に行った読書量調査と比較すると、ほぼ平均的な結果です。ただ1カ月に1冊も読まないとか、2、3冊という子どもがいることに注目したいです。それに読む子と読まない子との格差があることも気がかりです。これら読まない子・読めない子どもにも何らかの手段を講じ、すべての子どもが読書をしていくための環境づくりが望まれます。この計画書にそのことの具体策を盛り込み改善を図りたいと思います。

3　計画の基本方針と計画の期間、計画のイメージ

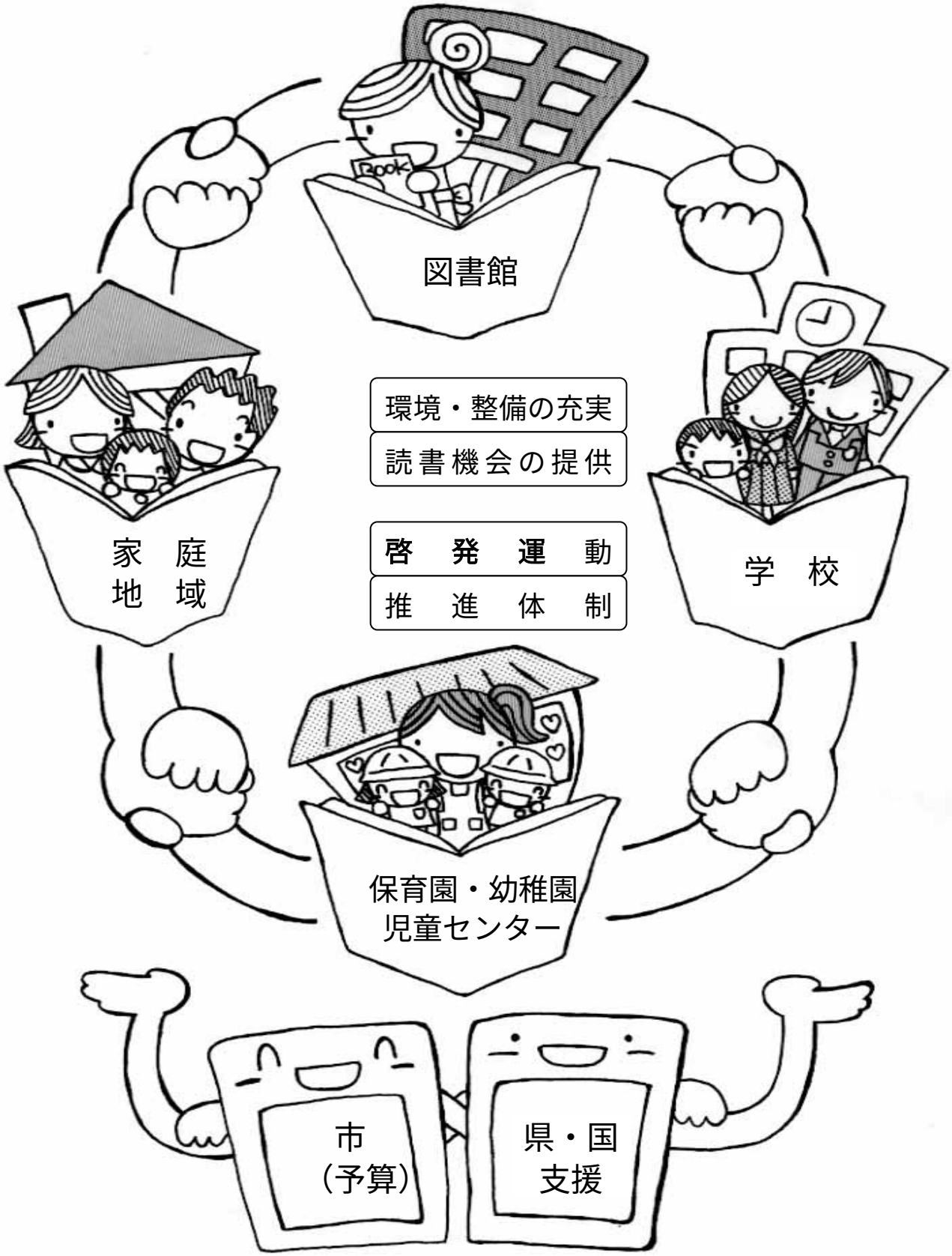
山梨市の子どもが、小さいときから身近な場所で本にふれ読書を楽しむことができ、自主的な読書活動ができるような環境づくりを推進するために、家庭や地域、学校、図書館等がそれぞれ取り組むべき具体的な方策を計画的に推進していくことを目的とします。

(1) 家庭、地域における読書活動の推進
(2) 幼稚園、保育園、児童センター等における読書活動の推進
(3) 学校における読書活動の推進
(4) 市立図書館における読書活動の推進

■　計画の期間

この計画は、平成20年度から平成24年度までの5年間とします。その後についても継続して見直していきます。

■　計画のイメージ


図書館
家　庭
地　域
学　校
環境・整備の充実
読書機会の提供
啓　発　運　動
推　進　体　制
保育園・幼稚園
児童センター
市
（予算）
県・国
支援

第２章　子ども読書活動推進のための方策（整備・充実を含む）

１　家庭・地域における子ども読書活動の推進

(1) 現状および課題

子どもの読書意欲や本に対する関心を高めるには、家族みんなが読書に親しむことが大切です。しかし、テレビ・コンピューター（ゲーム）・DVD などの映像機器等の普及により家族や子どもたちを取り巻く環境や生活が多様化し、読書以外のことに費やす時間が多くなっています。そのため、学年が上がるごとに読書から離れていくのが「学校読書傾向調査」からも読み取れるのが現状です。子どもたちが読書に対する意欲や関心を高め、将来にわたり読書に親しむことは、ゲームやテレビでは得られない豊かな人間性を培い、考える力、生きる力の糧となります。

山梨市では市立図書館と保健課との連携により、平成 14 年から「ブックスタート事業」を実施しています。この事業は、保護者が子どもと直接向き合い、幼いときから絵本の読み聞かせをして、子どもの感性や想像力を豊かに育てる時間がつくれるよう絵本を手渡しで贈り、赤ちゃんの成長をあたたかく見守る子育て支援事業でもあります。

また地域の公民館では少子高齢化が進む中で、高齢者の利用が増加している傾向ですが、地域で子どもを守り育てていくという観点から、幼児、児童の利用を促進するよう図書コーナーの充実や、講座・教室の開催などの工夫をしていく必要があると思います。

乳幼児期から読書に親しみ、読書を習慣として形成していくことは、家庭や地域での取り組みが大切であり、また、読書活動推進の重要な基盤であると考えられます。

(2) 具体的な取り組み

読書の機会の提供

＊　親子と保健課・市立図書館の連携による「ブックスタート事業」の継続充実を図ります。
＊　家庭における読み聞かせや親子読書による読書活動の普及を図ります。
＊　家庭への情報の発信を行います。(ライフステージごとのおすすめ本や話題の本など)
＊　家庭内での読書習慣の重要性を再認識するための啓蒙活動の普及を図ります。
＊　親子での図書館利用の推進を図ります。
＊　公民館は図書の提供と場所の提供を積極的に行います。
＊　市内小学校入学時、新 1 年生全員にセカンドブックとして本を配布できるように考慮します。

環境の整備

＊　家庭や地域・ボランティアグループとの読書活動の連携を図ります。
＊　地区公民館は利用しやすい図書の配架に努めます。
＊　各家庭で読書の日を決め、「家読（うちどく）」の推進を図ります。

2　幼稚園・保育園・児童センター等における子ども読書活動の推進

(1) 現状および課題

山梨市には、公立・私立あわせて 3 つの幼稚園、17 の保育園と 3 つの児童センターがあります。また、公立 12 施設で放課後の学童クラブを開設しています。これらの施設において、蔵書数は施設ごと総じて不十分な状況であり、読書コーナーとしての専用スペースが設置されている所は少なく、読書環境整備に力を注いでいく必要があります。

この時期の子どもたちは、家庭で自分の興味のある本を見たり、読んだりすることから、施設では、教師、保育士などの大人や友達とともに、楽しみながらいろいろな本に親しむなかで、あらたな世界に興味や関心を広げていく年齢です。

今後は、施設の読書環境を整え、子どもの成長と発達に応じた図書の充実と、読書の習慣が形成されるような読み聞かせや一斉読書、おはなし会などの機会を設けることが重要です。

(2) 具体的な取り組み

読書の機会の提供

＊　絵本やおはなし、紙芝居に親しむ、読み聞かせやおはなし会を実施します。
＊　みんなで一緒に読書をする機会、「読書タイム」の設定に努めます。
＊　大型紙芝居、パネルシアター、エプロンシアターなどを誕生会や季節の行事、日常の保育の中に積極的に取り入れます。

環境の整備

＊　各施設、年齢に応じた図書の充実に努めます。
＊　子どもたちが触れ合うことができる、読書コーナーの設置など読書施設の充実に努めます。
＊　子どもたちが本に親しめるよう、家庭との連携を図ります。
＊　市立図書館から本の借り受けをするなど、連携を図ります。

3　学校における子ども読書活動の推進

(1) 現状および課題

学校では今まで､国語など各教科をはじめとする様々な領域で､読書を推進し、生涯にわたって読書を習慣化するような取り組みを行ってきました。具体的には、読み聞かせ、朝読書、一斉読書などの読書意欲を喚起する取り組みを、ほぼ全学校が行っています。子どもの読書量も、徐々に増加しています。

しかし、学年やクラスにより貸し出し数の格差が見られます。また、高学年になるにつれ授業数の増加、学校外行事への参加などで余裕がなくなり、貸し出し数が減少する傾向にあります。読書の習慣化をはかるためにも、高学年以上の児童、生徒の読書意欲を継続していくことが大切となってきます。

学習センターとしての役割から考えていくと、総合学習の資料、地域資料などが整備されていない現状があります。児童・生徒に使いやすいよう、資料の提供や検索などができることも必要となってきます。また、各校の持っている資料を、お互い活用できるような、学校間の連携も難しい状況があります。

児童･生徒数の多い学校では、蔵書の管理、検索、貸し出し数の集計、各種統計など膨大な仕事量になるため、正確な数を把握するためには時間もかかり困難をともなっています。このことから、コンピュータによるデータベース化が喫緊の課題であると考えられます。

子どもの読書意欲の向上には、周囲の環境や、人の影響が大きくあらわれます。小学校においては、学校司書が配置されていない学校もあり、図書主任だけでは図書室での指導が行き届かない場面も見られます。学校司書の全校配置と、文部科学省の「学校図書館支援センター推進事業（平成 18 年度～20 年度)」の取り組みの一つとして配置された協力員の継続が必要です。そして、すべての教職員・学校司書・協力員および市立図書館との連携をより深めながら、子どもの主体的･意欲的な読書活動を推進していくことが重要だと考えられます。

(2) 具体的な取り組み

読書の機会の提供

＊　図書館利用マナー向上のためのオリエンテーションを実施します。
＊　各教科、特別活動、総合的な学習などの調べ学習を通し読書活動の一層の充実を図ります。
＊　読み聞かせ、朝の読書、一斉読書などの取り組みを継続的に行い、読書意欲を高め読書の習慣化を図ります。
＊　図書集会やおはなし会、各校で取り組む読書週間などの読書に関わる行事の推進を図ります。
＊　図書委員会活動の活発化を図ります。
＊　学校図書便り、図書委員会便り等を発行します。
＊　すすめる本、教科関連図書のブックリスト等を作成します。
＊　各校の実情に応じ、家庭と連携をとりながら親子読書の推進を図ります。
＊　学級文庫等を設置します。
＊　各種研究会、校内研究等を通して読書指導の充実を図ります。

環境の整備充実

＊ 図書資料の計画的な整備、児童生徒の学習や興味、関心に応えるよう魅力的 な蔵書の充実を図ります。

＊ 図書資料を効果的に有効利用するため、コンピュータシステムや検索ソフト等を導入し、図書資料のデータベース化を図ります。また、利用の効率化を推進するために、学校間、市立図書館との連携を図り、ネットワークシステムや配送システムの整備を行います。

＊ 学校図書館の施設や設備を整備し、読書活動や学習活動に適した環境づくりを行います。

＊ 児童・生徒がより身近に感じ、利用しやすい図書館作りのためレイアウト、サイン、展示、掲示等を行います。

＊ 学校図書館を十分に機能させ、児童・生徒の要求に応えるため１校 1 人専任の学校司書を配置し、司書教諭、図書主任と協力し図書館運営を行える体制づくりを図ります。

＊ 読書活動の拠点となる「読書センター」としての機能を充実するだけでなく、全ての学校図書館にインターネットやパソコンを整備し、必要な情報や資料を収集し活用できるよう「学習センター」としての充実も図ります。

＊ 司書教諭（図書主任）・学校司書・学校図書館支援センターとの連携をより深め、環境の整備・充実を図ります。

4　市立図書館における子ども読書活動の推進

(1) 現状および課題

市立図書館は、さまざまな情報を市民に提供し、市民が自ら学び、考え、創造し、より豊かな生活の実現をめざす生涯学習の拠点施設として運営されています。具体的には、子どもたちの多種多様な要望に応えたり、大人が子どもに与えたい本を選択できるように、さまざまな資料を収集しています。また、子育て支援運動のひとつとして、子どもの読書習慣の形成に寄与するブックスタート事業をはじめ、おはなし会、図書館行事、本の紹介などをとおして、読書に親しむきっかけづくりにも取り組んでいます。

図書館司書は、市民の疑問や質問に答えたり、児童・生徒の調べ学習などに対して、資料を駆使して調べ物の支援をしたり、読書相談に応じています。その他、図書館見学、職場体験等、子どもたちの体験活動の場としての利用の支援といった､さまざまな児童サービスを展開しています｡平成 19 年 4 月からは、全域サービス網の充実と多様なニーズに応えるために、ホームページの開設とインターネットによる情報提供が可能になりました。今後は、子どもたちがインターネットから、図書館情報や読書情報を検索しやすくするための工夫が必要となります。

統計による市立図書館の現状は、平成 19 年度予算として、住民 1 人あたりの資料費が山梨県内市町村図書館の平均 379 円を大きく下回っています。また、平成 19 年 1 月の山梨市学校図書館支援センターによる学校読書傾向調査集計結果（市内の小学校 12 校に在学する児童及びその保護者を対象）をみると、75%

の保護者が何らかの形で子どもが読書をするきっかけづくりをしていると答えています。その方法として、「子どもを図書館に連れて行く」が全体の 24.7%と最も多い状況です。

今後も市立図書館は山梨市における子どもの読書活動推進の中核施設として、子どもたちの成長・発達段階に応じた豊富で新鮮な資料の計画的な収集と、おはなし会の部屋や学習室の新設など、子どもの読書環境の整備・充実に努めることが重要です。また、子どもの読書活動を円滑に推進していくためには、子どもの読書を支援する専門職員の増員と、保育園、幼稚園、学校などの教育関係機関や、読み聞かせボランティア、地域の関係機関や団体など、子どもの読書活動に携わっているすべての機関との連携・協力が、これまで以上に求められています。

(2) 具体的な取り組み

読書の機会の提供

＊ 絵本を手渡し、乳幼児と保護者のコミュニケーションを図ることを目的とした「ブックスタート事業」を、今後も保健課と連携して継続・推進します。

＊ 0 歳から小学校低学年を対象に実施している、読み聞かせや手遊び、ブックトーク、紙芝居などの「おはなし会」を定期的に行います。

＊ 子どもの読書週間中の行事、図書館子どもまつり、クリスマスおはなし会など、子どもと家族が一緒に楽しむことができ、それを契機として本に親しめるような行事を実施します。

＊ 子どもたちの読書相談に応じたり、自発的に調べ学習ができるように、専門的な立場から、図書館司書が対応し支援するレファレンスサービスを充実します。

＊ 市内の子どもたち、特に児童・生徒を対象に、図書館見学や職場体験の機会を提供します。

＊ 青少年(小学校高学年・中学生・高校生)を対象とした図書(ヤングアダルト図書)の充実と、ヤングアダルトコーナーの設置に努めます。

＊ 障害のある子どもたちなど図書館を利用しにくい子どもたちへの読書活動の支援として、録音図書、点字図書、大活字本、外国語で書かれた図書などの資料の整備充実を図ります。

＊ 各施設への団体貸し出しを推進し、各教育機関との相互協力や学習支援を継続・実施します。

＊ 子ども向け「図書館利用案内」「図書館だより」など、さまざまな情報提供を行います。

環境の整備充実

＊ 子どもの発達状況に応じた資料の収集と、子どもの興味・関心や知りたい欲求に応えられる資料費の確保に努めます。また、学習支援ができるよう、特に参考資料や地域資料の充実も図ります。

＊ 図書館の施設や設備を整備し、利用しやすい環境づくりに努めます。特に、学習室、おはなしのコーナーの新設と、児童コーナーの拡充に努めます。

＊　インターネット等による蔵書検索と図書の予約サービスを継続し、ホームページ上に、子ども向けコーナーの新設に努め、わかりやすい情報発信を行います。
＊　専任の図書館長と図書館司書の増員を図り、円滑な図書館運営が行える体制づくりに努めます。
＊　継続して、子どもの読書活動推進に取り組める職員の養成に努めます。また、職員は、専門的な研修にも積極的に参加します。
＊　ボランティアグループの育成を図り、おはなし会や図書館行事等への協力をお願いします。

第３章　推進体制の整備充実

子どもの読書活動を推進するためには、家庭・地域・学校・図書館を通じた社会全体での取り組みが必要であると考えられます。

1　諸条件の整備

(1) 職員体制の充実

子どもの読書活動を推進するためには、子どもの読書に関する専門的な知識や、読み聞かせなどのきっかけづくりをする人的配置が必要です。そのために、学校図書館職員や公立図書館職員の専門職員が継続的かつ効率的に子どもの読書活動の推進に取り組めるよう、施設にみあった職員数の確保と、職員の養成等の環境づくりに努めます。

(2) 財政上の措置

本計画の具体的な方策を実現するために、市、関係機関、団体等に必要な財政上の措置を講ずるよう努めていきます。また、国、県へも必要に応じて働きかけていきます。

2　広報・啓発活動

(1)　子どもの読書活動推進にあたり、山梨市では「広報やまなし」やインターネットのホームページ、ケーブルテレビなどを利用して、子どもの読書活動推進にかかわるさまざまな情報を提供します。

(2)　子どもの読書活動を推進していくために、「子ども読書の日」(4 月 23 日)や「子どもの読書週間」(4 月 23 日～5 月 12 日)を中心に、全市的読書活動取り組みの日とし、家庭や学校、図書館など、あらゆる読書施設において行事等を実施します。

3　関係機関との連携・協力

子どもの読書活動を推進するにあたっては、子どもだけでなく、大人への働きかけが大切になります。家庭・学校・図書館は言うまでもありませんが、地域や行政も合わせて連携・協力していく必要があります。

(1)　家庭と学校等の連携・協力

◎　保育園・幼稚園・学校等は、家庭での読書の大切さを伝えたり、読書に関する情報提供をしたり、子どもの読書活動の推進に努めます。

◎　保育園・幼稚園・学校等は、それぞれの図書活動の活性化を図るため、

ボランティアの受け入れを検討します。

(2)　家庭と図書館の連携・協力

◎　図書館は、家庭での子どもの読書の大切さを伝える取り組みを行い、子どもの読書活動の推進に努めます。

◎　図書館は保健課と協力する中で、読み聞かせの楽しさや大切さを知らせ、乳幼児が本と出会えるよう働きかけます。

◎　図書館は、親子で読書活動が推進できるような活動を計画します。

◎　図書館・教育施設・公民館などにおいて、市民のための読書環境を整えるよう努めます。

(3)　図書館と学校等の連携・協力

◎　小中学校は、読み聞かせ、おはなし会等をボランテア団体と協力し、読書の楽しみを得られるよう努めます。

◎　教育機関と図書館は、情報交換を密にして、連携や協力、ネットワーク化について進めます。

◎　図書館は、図書等の団体貸し出し、子どもの読書情報の提供、学校での子どもの読書活動の推進を支援します。

(4)　行政機関との連携・協力

◎　教育・福祉をはじめとする各部局の連携を図りながら、子どもの読書活動推進に取り組みます。また、家庭・地域・学校の読書活動推進に関する取り組みを積極的に促し支援します。

◎　図書館や学校の専門的な職員の配置や図書資料の整備、関係職員の研修などに取り組みます。

参　考　資　料

1　子どもの読書活動の推進に関する法律
2　山梨市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱
3　山梨市子ども読書活動推進計画策定委員名簿
4　活動施設一覧
5　学校図書館支援センターによる学校読書傾向調査結果

1　子どもの読書活動の推進に関する法律

（目的）
第一条　この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

（基本理念）
第二条　子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）
第三条　国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）
第四条　地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の努力）
第五条　事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

（保護者の役割）
第六条　父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

（関係機関等との連携強化）
第七条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

（子ども読書活動推進基本計画）
第八条　政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

2　政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3　前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

（都道府県子ども読書活動推進計画等）
第九条　都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2　市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

3　都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4　前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

（子ども読書の日）
第十条　国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2　子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3　国及び地方公共団体は、子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

（財政上の措置等）
第十一条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則 この法律は、公布の日から施行する。

衆議院文部科学委員会における附帯決議

政府は、本法施行に当たり、次の事項について配慮すべきである。

一　本法は、子どもの自主的な読書活動が推進されるよう必要な施策を講じて環境を整備していくものであり、行政が不当に干渉することのないようにすること。

二　民意を反映し、子ども読書活動推進基本計画を速やかに策定し、子どもの読書活動の推進に関する施策の確立とその具体化に努めること。

三　子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことができる環境づくりのため、学校図書館、公共図書館等の整備充実に努めること。

四　学校図書館、公共図書館等が図書を購入するに当たっては、その自主性を尊重すること。

五　子どもの健やかな成長に資する書籍等については、事業者がそれぞれの自主的判断に基づき提供に努めるようにすること。

六　国及び地方公共団体が実施する子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業への子どもの参加については、その自主性を尊重すること。

2　山梨市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱

（設置）
第１条　子どもの読書活動の推進に関する法律（平成 13 年法律第 154 号）第 9 条第 2 項の規定による山梨市子ども読書活動推進計画（以下「推進計画」という。）の策定にあたり、山梨市子ども読書活動推進計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）
第２条　策定委員会は、推進計画策定のため必要な事項を協議する。

（組織）
第３条　策定委員会の委員は、子ども読書活動推進に係わる市民、学識経験者、学校教育関係者及び関係行政機関の職員のうちから、市長が委嘱又は任命する委員を持って組織する。

（任期）
第４条　委員の任期は、委嘱又は任命された日から推進計画が策定されるまでとする。

（役員）
第５条　この策定委員会に、会長及び副会長を各１名置く。
2　会長は、委員の互選によって選出し、策定委員会を代表し、会務を総理する。
3　副会長は、会長の指名する委員をもって充て、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

（会議）
第６条　策定委員会は、必要に応じ会長が招集し、会長がその会議の議長となる。

（庶務）
第７条　策定委員会の庶務は、生涯学習課が行う。

（その他）
第８条　この要綱に定めるもののほか策定委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附　則
この要綱は、平成 19 年 9 月 21 日から施行する。

3　山梨市子ども読書活動推進計画策定委員名簿

団　体　名	氏　　名	備　考
山梨市教育長	堀　内　邦　満	
山梨市社会教育委員の会代表	川　崎　直　樹	
山梨市社会教育委員の会副代表	坂　本　眞紀子	
山梨市社会福祉協議事務局長	雨　宮　俊　彦	
山梨市公民館長代表	竹　川　久　雄	日下部公民館長
山梨市公民館主事代表	上　野　　萬	後屋敷公民館主事
山梨市育成会連絡協議会代表	水　上　義　雄	
山梨市文化協会会長	藤　原　一　仁	
山梨市校長会代表	志　村　篤　男	後屋敷小学校長
山梨市教頭会代表	依　田　一　秀	加納岩小学校教頭
ＰＴＡ連絡協議会代表	齊　藤　　実	
ＰＴＡ連絡協議会代表	日　原　百合香	
山梨市保育所園長代表	若　月　直　美	山梨保育所園長
学校司書教諭代表	保　坂　千恵子	日下部小学校図書主任

事務局

所　　属	氏　　名	備　考
生涯学習課長（山梨市立図書館館長）	窪　田　今朝富	
市立図書館司書	武　井　さつき	
学校図書館司書	土　橋　　節	
図書館支援センター	守　屋　久　美	
学校教育課	小　川　鉄　男	
学校教育課	保　科　伸　二	
生涯学習課	竹　川　太　朗	
生涯学習課	西　川　育　代	

4　活動支援施設一覧

<table>
<tr><th colspan="6">施　　設　　名</th></tr>
<tr><td colspan="2">保育園</td><td colspan="2">学童クラブ</td><td rowspan="10">市立</td><td>後屋敷小学校</td></tr>
<tr><td rowspan="10">市立</td><td>後屋敷保育園</td><td rowspan="9">市立</td><td>加納岩学童クラブ</td><td>日川小学校</td></tr>
<tr><td>岩手保育園</td><td>おおとり学童クラブ</td><td>山梨小学校</td></tr>
<tr><td>山梨保育園</td><td>日下部学童クラブ</td><td>八幡小学校</td></tr>
<tr><td>市川保育園</td><td>山梨学童クラブ</td><td>岩手小学校</td></tr>
<tr><td>八日市場保育園</td><td>八幡学童クラブ</td><td>牧丘第一小学校</td></tr>
<tr><td>八幡保育園</td><td>日川学童クラブ</td><td>牧丘第一小学校柳平分校</td></tr>
<tr><td>窪平保育園</td><td>後屋敷学童クラブ</td><td>牧丘第二小学校</td></tr>
<tr><td>倉科保育園</td><td>岩手学童クラブ</td><td>牧丘第三小学校</td></tr>
<tr><td>西保保育園</td><td>牧丘第一学童クラブ</td><td>三富小学校</td></tr>
<tr><td>杣口保育園</td><td>牧丘第二学童クラブ</td><td colspan="2">中学校</td></tr>
<tr><td>三富保育園</td><td>牧丘第三学童クラブ</td><td rowspan="3">市立</td><td>山梨南中学校</td></tr>
<tr><td rowspan="4">私立</td><td>日下部保育園</td><td>三富学童クラブ</td><td>山梨北中学校</td></tr>
<tr><td>光明保育園</td><td colspan="2">児童センター等</td><td>笛川中学校</td></tr>
<tr><td>加納岩保育園</td><td rowspan="4">市立</td><td>つどいの広場「たっち」</td><td colspan="2">高等学校</td></tr>
<tr><td>まこと保育園</td><td>つどいの広場「たっち牧丘」</td><td rowspan="2">県立</td><td>日川高等学校</td></tr>
<tr><td>日川保育園</td><td>加納岩児童センター</td><td>山梨高等学校</td></tr>
<tr><td>よい子保育園</td><td>日下部児童センター</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">幼稚園</td><td></td><td>山梨児童センター</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>市立</td><td>つつじ幼稚園</td><td colspan="2">小学校</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">私立</td><td>双葉幼稚園</td><td rowspan="2">市立</td><td>加納岩小学校</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>くさかべ幼稚園</td><td>日下部小学校</td><td></td><td></td></tr>
</table>

5　学校図書館支援センターによる学校読書傾向調査結果

平成 19 年度　　学校読書傾向調査結果

山梨市学校図書館支援センター

山梨市は、平成 18 年度に文部科学省の新規事業である「学校図書館支援センター推進事業」の推進地域に指定されました。この事業は、3 ヵ年の継続事業で文部科学省が「学校、家庭、地域が一体となった幼児期からの人間力の向上」の取り組みの一つとして、子どもが自主的に読書活動を行うことができるような環境整備を図ることを目的としています。

学校図書館支援センターでは、「子どもたちの健やかなこころの健康づくり」に向けて、現在の読書傾向を昨年の同じ時期の読書傾向と比較し、推進事業の検証とさらなる前進を図る目的で下記のとおりアンケート調査を実施しました。

読書傾向調査

（ア）　調査の目的

市内の小学生・中１生およびその保護者の読書傾向を調査し、昨年と同じ時期の傾向と比較し、今後の児童・生徒の読書活動推進の資料とする。

（イ）　調査対象

山梨市内の小学生・中１生およびその保護者。

（小学生・中１生については学校で学習活動時間の中で記入し、保護者については家庭に配布して記入することとする。）

（ウ）　実施期間

平成 19 年 12 月 3 日（月）　～　12 月 7 日（金）

心を耕す読書活動をめざして

学校図書館支援センター事業がスタートして２年目をむかえ、学校をあげての読書活動推進への取組や地域の方々のボランティアに支えられた支援センターの取組により、子どもたちの読書活動もさらに活発になってきたのではないかと手ごたえを感じます。

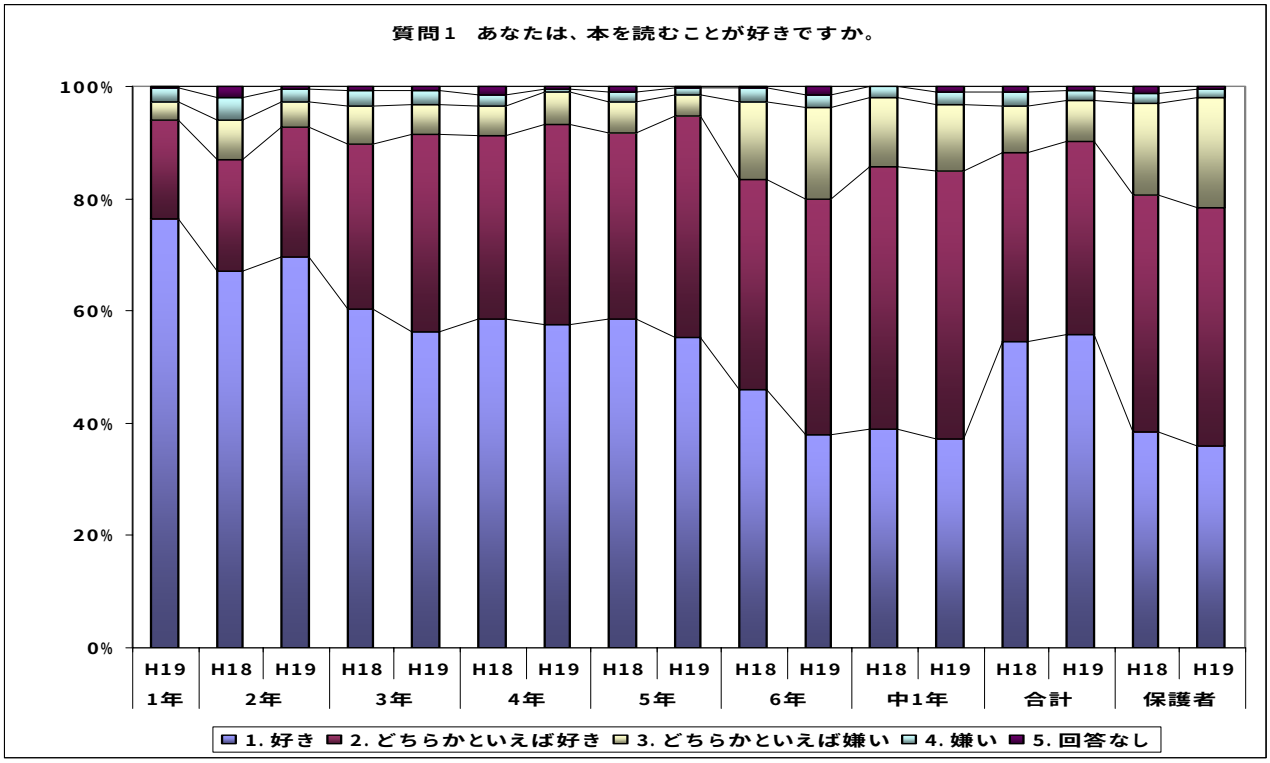
昨年と同時期に読書傾向調査を実施することにより、子どもたちの読書活動にどのような変化が生まれたか、またどのような課題が浮かび上がってきたかを知ることは、今後の大きな資料となると考え、アンケートを実施しました。

なお、昨年の子どもたちにどのような変化が見られたかを知るために中学１年生までを対象としました。（同じ子どもの追跡調査ではありませんので、個々の子どもたちの変化ではなくあくまでもその傾向を見るための資料です）

質問１．あなたは、本を読むことが好きですか。

単位:人 ( ) 内は%

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		中学1年生		合計		保護者	
1. 好き	284	(76.3)	235	(69.5)	207	(56.4)	228	(57.6)	194	(55.3)	134	(38.0)	129	(37.3)	1,411	(55.9)	661	(36.0)
2. どちらかといえば好き	66	(17.7)	78	(23.1)	129	(35.1)	141	(35.6)	138	(39.3)	148	(41.9)	165	(47.7)	865	(34.3)	779	(42.4)
3. どちらかといえば嫌い	12	(3.2)	16	(4.7)	19	(5.2)	23	(5.8)	14	(4.0)	58	(16.4)	41	(11.8)	183	(7.3)	360	(19.6)
4. 嫌い	9	(2.4)	7	(2.1)	9	(2.5)	2	(0.5)	4	(1.1)	8	(2.3)	8	(2.3)	47	(1.9)	30	(1.6)
5. 回答なし	1	(0.3)	2	(0.6)	3	(0.8)	2	(0.5)	1	(0.3)	5	(1.4)	3	(0.9)	17	(0.7)	7	(0.4)
合　計	372	(100.0)	338	(100.0)	367	(100.0)	396	(100.0)	351	(100.0)	353	(100.0)	346	(100.0)	2,523	(100.0)	1,837	(100.0)



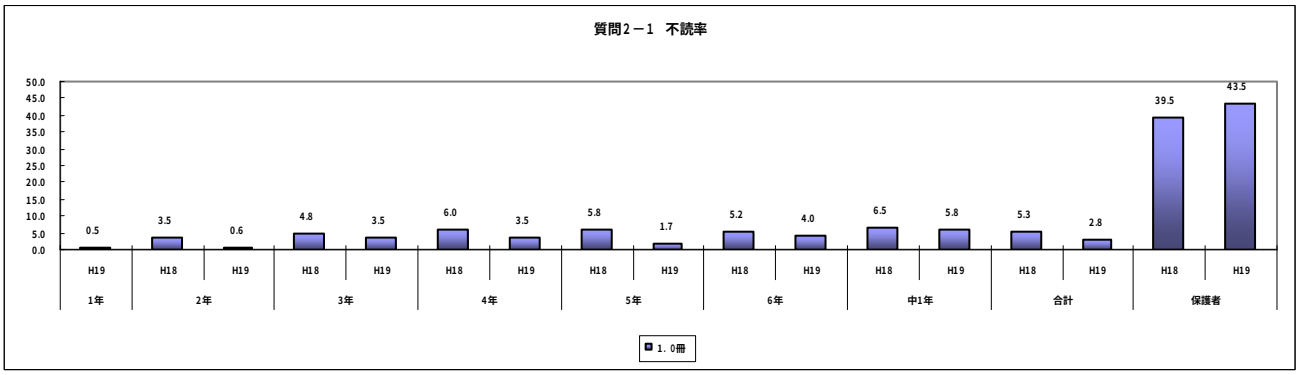
読書が好きであるかという質問では、全体的に見て「好き」と答えている児童・生徒も「どちらかといえば好き」と答えている児童・生徒もわずかですが増加しています。「嫌い」「どちらかといえば嫌い」も、わずかに減少している結果から見て、読書嫌いがわずかながら減っていることが分かります。また、３年生以上の学年は、「好き」と答えている児童・生徒が減少し、特に、６年生は 7.9%減少していますが、「どちらかといえば好き」が全学年増加しているという結果からも子どもたちは読書が好きであるということがわかります。

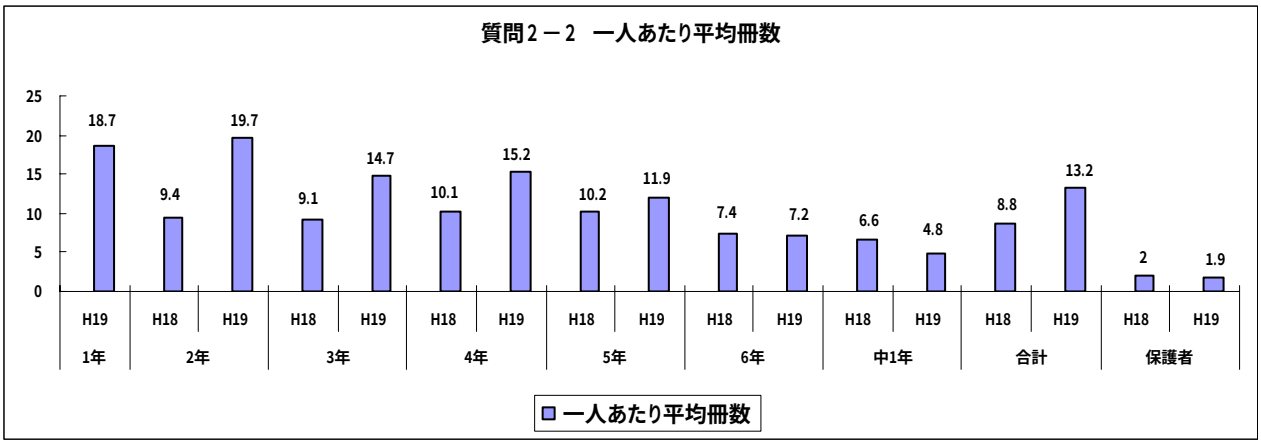
また、保護者は、数字の上からは「嫌い」「好き」ともに減ってはいますが、昨年同様８０％の保護者が「本を読むことは好きである」「どちらかといえば好きである」と答えています。子どもと本の出会い、そこには必ず親、先生など大人の介在が必要です。子どもにとっていちばん身近なおとなである保護者の意識をなおいっそう高める必要があるといえます。

質問２．あなたは、11 月の１ヶ月の間に学校や家で何冊本を読みましたか。

単位:人（）内は%

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		中学1年生		合計		保護者	
1. 0冊	2	(0.5)	2	(0.6)	13	(3.5)	14	(3.5)	6	(1.7)	14	(4.0)	20	(5.8)	71	(2.8)	800	(43.5)
2. 1冊	6	(1.6)	1	(0.3)	11	(3.0)	11	(2.8)	11	(3.1)	32	(9.1)	43	(12.4)	115	(4.6)	361	(19.7)
3. 2冊	3	(0.8)	7	(2.1)	10	(2.7)	18	(4.5)	23	(6.6)	59	(16.7)	94	(27.2)	214	(8.5)	285	(15.5)
4. 3冊	2	(0.5)	10	(3.0)	11	(3.0)	18	(4.5)	19	(5.4)	42	(11.9)	55	(15.9)	157	(6.2)	156	(8.5)
5. 4冊	10	(2.7)	11	(3.3)	15	(4.1)	19	(4.8)	28	(8.0)	30	(8.5)	28	(8.1)	141	(5.6)	45	(2.4)
6. 5冊	4	(1.1)	16	(4.7)	15	(4.1)	32	(8.1)	36	(10.3)	42	(11.9)	29	(8.4)	174	(6.9)	63	(3.4)
7. 6冊	25	(6.7)	9	(2.7)	10	(2.7)	12	(3.0)	19	(5.4)	26	(7.4)	20	(5.8)	121	(4.8)	22	(1.2)
8. 7冊	2	(0.5)	18	(5.3)	8	(2.2)	13	(3.3)	15	(4.3)	7	(2.0)	9	(2.6)	72	(2.9)	16	(0.9)
9. 8冊	60	(16.1)	13	(3.8)	38	(10.4)	28	(7.1)	18	(5.1)	10	(2.8)	6	(1.7)	173	(6.9)	13	(0.7)
10. 9冊	16	(4.3)	7	(2.1)	11	(3.0)	5	(1.3)	10	(2.8)	1	(0.3)	3	(0.9)	53	(2.1)	0	(0.0)
11. 10冊	49	(13.2)	35	(10.4)	47	(12.8)	62	(15.7)	45	(12.8)	37	(10.5)	15	(4.3)	290	(11.5)	26	(1.4)
12. 11冊～15冊	47	(12.6)	67	(19.8)	80	(21.8)	58	(14.6)	49	(14.0)	21	(5.9)	10	(2.9)	332	(13.2)	18	(1.0)
13. 16冊～20冊	42	(11.3)	45	(13.3)	32	(8.7)	34	(8.6)	31	(8.8)	9	(2.5)	4	(1.2)	197	(7.8)	16	(0.9)
14. 21冊以上	99	(26.6)	96	(28.4)	65	(17.7)	70	(17.7)	39	(11.1)	21	(5.9)	9	(2.6)	399	(15.8)	11	(0.6)
15. 回答なし	5	(1.3)	1	(0.3)	1	(0.3)	2	(0.5)	2	(0.6)	2	(0.6)	1	(0.3)	14	(0.6)	5	(0.3)
合　計	372	(100.0)	338	(100.0)	367	(100.0)	396	(100.0)	351	(100.0)	353	(100.0)	346	(100.0)	2,523	(100.0)	1,837	(100.0)
一人あたり平均冊数（冊）	18.7		19.7		14.7		15.2		11.9		7.2		4.8		13.2		1.9	





＊1　全国学年別不読率

学年	4年生	5年生	6年生	中1生
不読率	2	3.3	8.3	9.1

(%)

＊2　全国読書平均冊数

学年	4年生	5年生	6年生	中1生
平均冊数	12.9	9.2	6.3	3.9

(冊)

＊1．＊2　･･･2007年度版毎日新聞社「第53回学校読書調査」参照

喜ばしいことに子どもたちの不読率は、全学年とも減少していますが、保護者はわずかに増加しています。児童・生徒の不読率の減少は、各学校及び家庭における読書推進の取り組みの成果の表れと推察できます。保護者の不読についてはいろいろな原因が考えられますが、働き盛りの年代でもあり、父親も母親も仕事が忙しく時間が取れないことを理由にますます本離れが進むのではと危惧します。アンケートの保護者向けの質問１０の「読書全般についての意見・感想」から見ても、保護者の読書への意識・関心は高いのですが、今はそのための十分な時間が取れないという意見がほとんどでした。

しかし、小・中学校時代は子どもにとっても親にとっても共に過ごす貴重な時間であることを考えると、時にはテレビを消して家族で本を読む「家読」など、読書へのきっかけ作りをもう一度見直し、読書推進を図る必要があります。

一人あたりの平均冊数においては、２年生～５年生が昨年度より増加していますが、6年生と中１生は減少しています。特に、２年生の10冊という増加は、字を覚え、少し長いお話が読めるようになり、理解できるようになった時期なので、この機会を逃さずほめて励まして、読書が習慣となることを切に願います。

６年生は、最高学年としていろいろな児童会行事等の中心的役割を担うため、休み時間などに図書室に行く回数が減っていることも要因の一つですが、社会の矛盾などに気づき社会へ目を向けはじめるこの時期に、読書を通して得る「生きる力」や「判断力」を考えるとき、読書への働きかけをもう一度考える必要があります。

また、中学生になると、部活動や学習等で読書に費やす時間が取りにくくなるという実態は理解できますが、性の違いを意識しはじめたり、自分と他者の違いに目覚めたりと内面に目を向ける精神的な成長の著しいこの時期に、考えや理解を深めたり、時には生きる指針を示唆してくれる読書の効果は大きいと考えられるので、山梨市の全中学校で実施している「朝読」や「一斉読書」などの読書への取り組みの充実をさらに図り、あらゆる方向から「質

を伴った読書推進」へ向けた働きかけが重要だと考えます。

全国学校図書館協議会が毎日新聞社と共同で毎年 6 月に実施している「学校読書調査」の 2007 年版の結果（4 年～中１）と比較すると、各学年とも読書平均冊数は全国平均を上回っています。このことは、学校や家庭の取り組みの成果と推察できます。

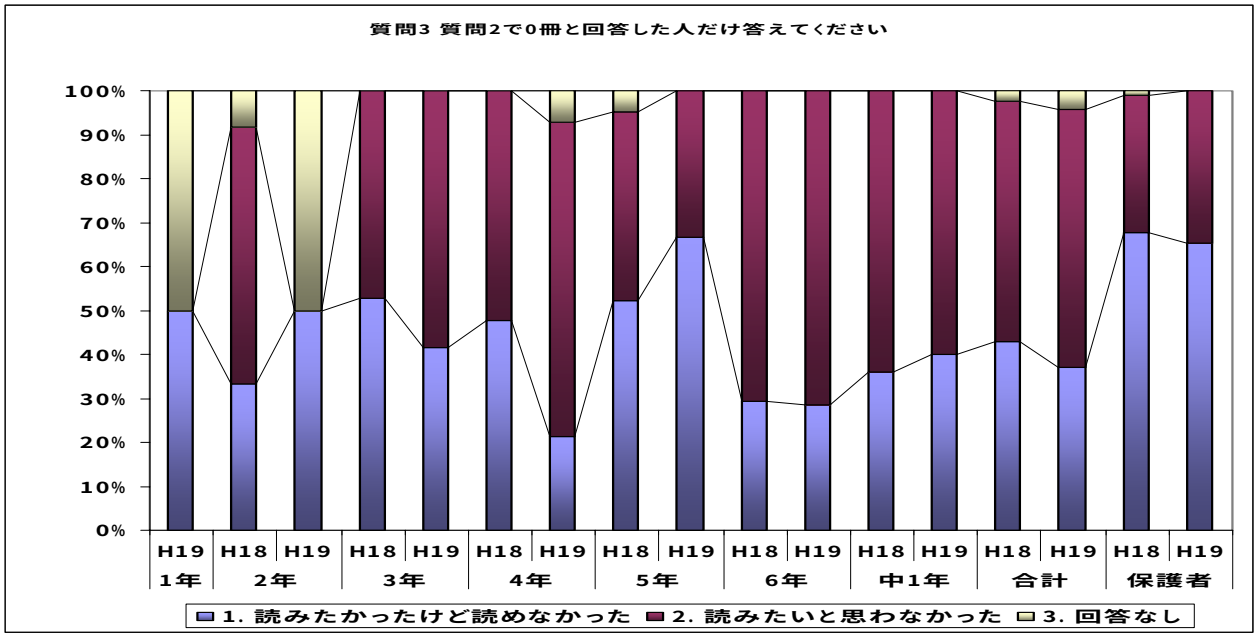
全体的にみると、山梨市も全国平均と同じように学年が進むにつれて読書量が減少しています。

山梨市の中１生は、冊数でいえば昨年度６年生のときより 1.8 冊下回ったものの、内容的には文学作品などに移行しているようです。しかし、同時に男女の差なくケータイ小説にも関心を持ち、友だち同士の貸し借りは盛んに行われているようです。内容的には問題のあるものも多いようですが、単に流行のものと無視をせず活字を読むきっかけと受け止め、そこからさらに充実した読書へいざなう道具と考えたらケータイ小説もまたよし、ということなのでしょうか。

質問３．質問２で０冊と回答した人だけ答えてください。　０冊だった理由は何ですか。

単位:人（）内は%

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		中学1年生		合計		保護者	
1. 読みたかったけど読めなかった	1	(50.0)	1	(50.0)	5	(41.7)	3	(21.4)	4	(66.7)	4	(28.6)	8	(40.0)	26	(37.1)	522	(65.3)
2. 読みたいと思わなかった	0	(0.0)	0	(0.0)	7	(58.3)	10	(71.4)	2	(33.3)	10	(71.4)	12	(60.0)	41	(58.6)	277	(34.6)
3. 回答なし	1	(50.0)	1	(50.0)	0	(0.0)	1	(7.1)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	3	(4.3)	1	(0.1)
合　計	2	(100.0)	2	(100.0)	12	(100.0)	14	(100.0)	6	(100.0)	14	(100.0)	20	(100.0)	70	(100.0)	800	(100.0)



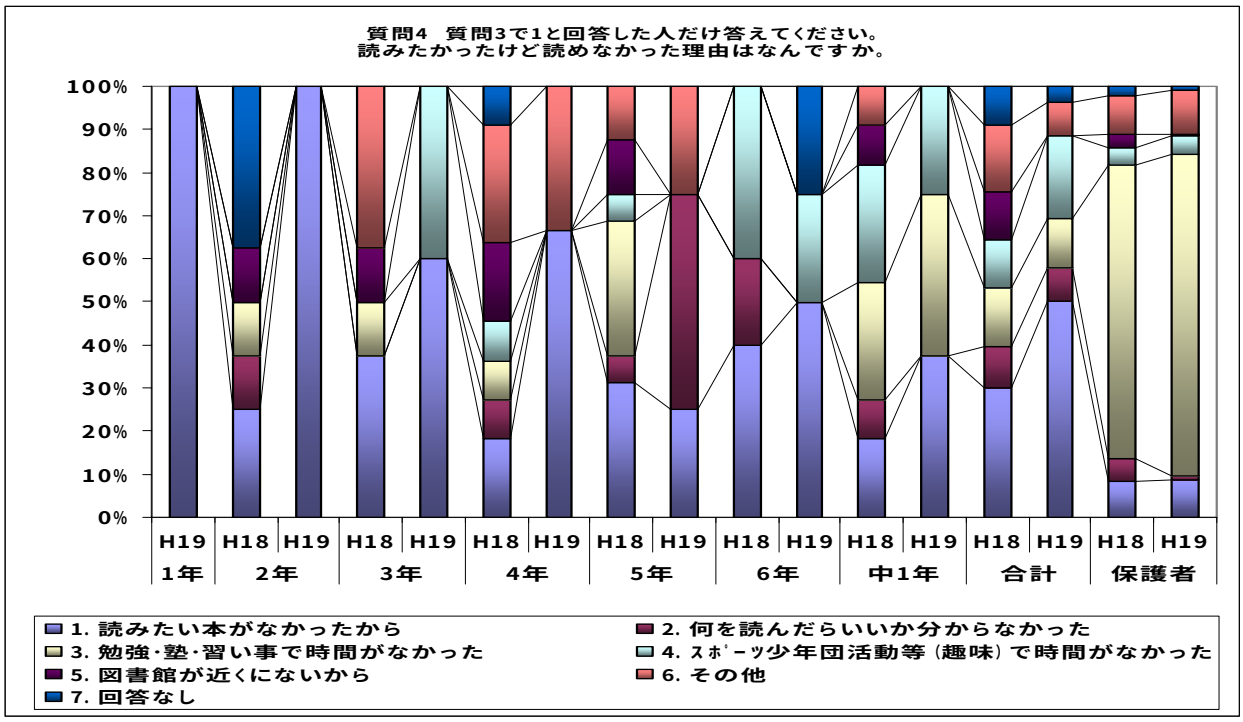
どの学年も０冊と答えた児童生徒は全体の中ではわずかなので、その数に理由付けをすることに大きな意味はないと考えられますが、「読みたかったけど読めなかった」と答えた児童生徒については「読書できる環境さえ整えば、読んでいたかもしれない」と考えれば「読書が楽しいと思える環境づくり」を工夫する必要があることが浮かんできます。「読みたいと思わなかった」児童・生徒が、「読みたいけど読めなかった」数を上回っている点は課題が残り

ます。その子どもたちへの読書への導きが早急に必要です。（ただ、１１月はほとんどの学校が読書週間中の取組として、読書集会や業間の休み時間を利用しての「読み聞かせ」の時間を設定したので、ほとんどの子どもが本に親しんだとのことです。）

質問４．質問３で１と回答した人だけ答えてください。読みたかったけれど読めなかった理由は何ですか。

単位:人（）内は%

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		中学1年生		合計		保護者	
1. 読みたい本がなかったから	1	(100.0)	1	(100.0)	3	(60.0)	2	(66.7)	1	(25.0)	2	(50.0)	3	(37.5)	13	(50.0)	45	(8.6)
2. 何を読んだらいいか分からなかった	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(50.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(7.7)	6	(1.1)
3. 勉強･塾･習い事で時間がなかった	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	3	(37.5)	3	(11.5)	389	(74.5)
4. ｽﾎﾟｰﾂ少年団活動等（趣味）で時間がなかった	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(40.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(25.0)	2	(25.0)	5	(19.2)	23	(4.4)
5. 図書館が近くにないから	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(0.4)
6. その他	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(33.3)	1	(25.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(7.7)	53	(10.2)
7. 回答なし	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(25.0)	0	(0.0)	1	(3.8)	4	(0.8)
合　計	1	(100.0)	1	(100.0)	5	(100.0)	3	(100.0)	4	(100.0)	4	(100.0)	8	(100.0)	26	(100.0)	522	(100.0)
6.その他回答 児童･生徒																		
保 護 者																		



全体から見ると１と答えた児童生徒は２６名にとどまってはいますが、そのうち「読みたい本がないから」と答えている数が１３人と半数をしめています。３年生は、「スポーツ少年団活動等（趣味）で時間がなかった」が新たに理由に加わり、３年生から学校外の活動が始まったことが見えてきます。

ほとんどの学年の「読みたい本がないから」と 5 年生の「何を読んだらいいかわからなかった」という理由を挙げた子どもたちへの個に応じたよりきめ細かなアドバイス、読書指導が求められると同時にさらなる蔵書の充実が期待されます。

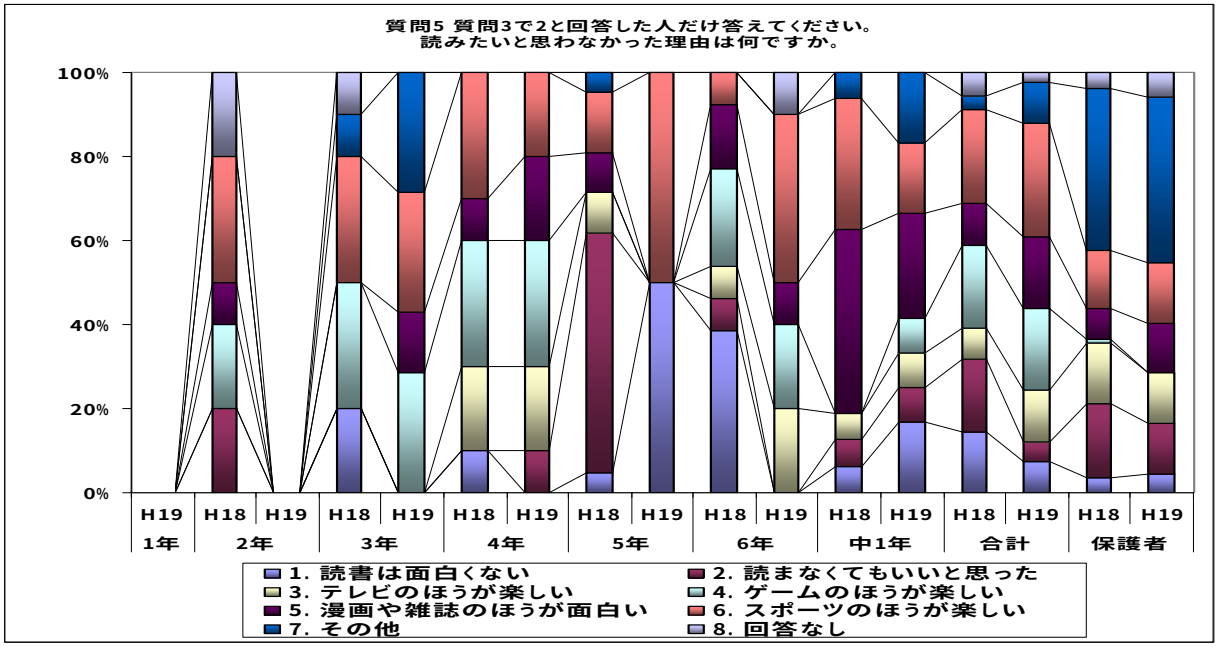
「勉強、部活で時間がないから」という理由を想像しましたが、実際にはそのような答えは少数でした。これは学校で「朝読」や「一斉読書」「読書集会」などの機会を設定し、本に向かう環境を保障していることが大きく影響していると考えられます。

保護者は昨年度同様「時間がなかった」が大きな理由になっています。

質問５．質問３で２と回答した人だけ答えてください。読みたいと思わなかった理由は何ですか。

単位：人（）内は%

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		中学1年生		合計		保護者	
1. 読書は面白くない	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(50.0)	0	(0.0)	2	(16.7)	3	(7.3)	12	(4.3)
2. 読まなくてもいいと思った	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(10.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(8.3)	2	(4.9)	34	(12.3)
3. テレビのほうが楽しい	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(20.0)	0	(0.0)	2	(20.0)	1	(8.3)	5	(12.2)	33	(11.9)
4. ゲームのほうが楽しい	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(28.6)	3	(30.0)	0	(0.0)	2	(20.0)	1	(8.3)	8	(19.5)	0	(0.0)
5. 漫画や雑誌のほうが面白い	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(14.3)	2	(20.0)	0	(0.0)	1	(10.0)	3	(25.0)	7	(17.1)	33	(11.9)
6. スポーツのほうが楽しい	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(28.6)	2	(20.0)	1	(50.0)	4	(40.0)	2	(16.7)	11	(26.8)	40	(14.4)
7. その他	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(28.6)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(16.7)	4	(9.8)	109	(39.4)
8. 回答なし	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(10.0)	0	(0.0)	1	(2.4)	16	(5.8)
合　計	0	(0.0)	0	(0.0)	7	(100.0)	10	(100.0)	2	(100.0)	10	(100.0)	12	(100.0)	41	(100.0)	277	(100.0)
7.その他回答 児童･生徒																		
保 護 者																		



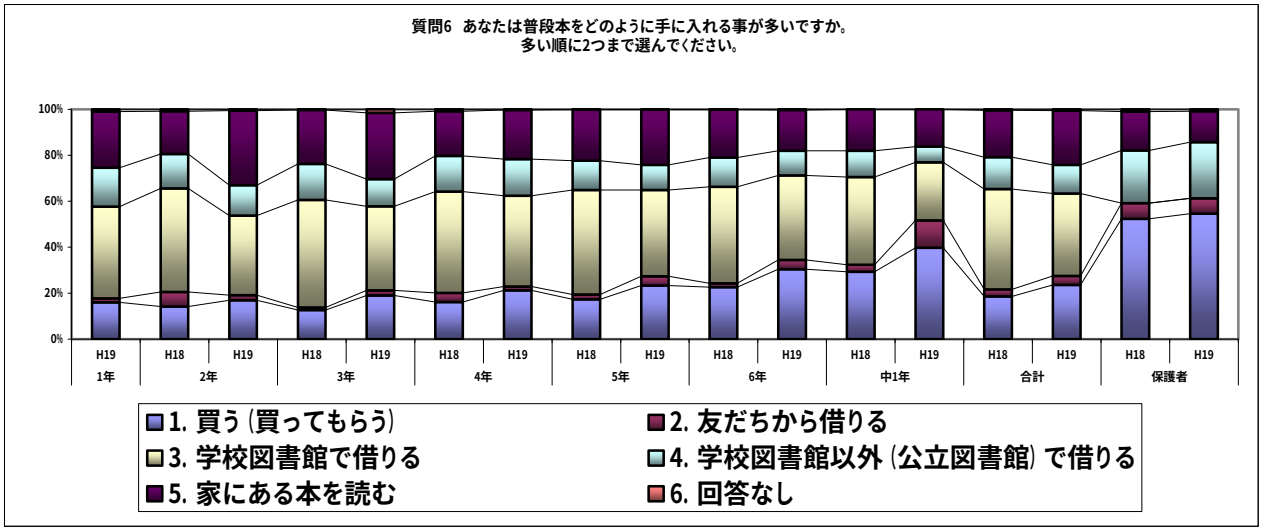
読みたいと思わなかった人は 41 人。理由はさまざまで、やはり、友達と過ごしたりスポーツ、ゲーム・テレビ・漫画・雑誌など娯楽で時間を費やしたりと、目先の楽しさのほうが優先され、読書について関心が低いことが推察

できます。ただ、「読書はおもしろくない」「読まなくてもいいと思った」との答えが少数なのは、「読書の意味」について理解がないわけではない様子が見え、今後の家庭への読書活動の啓蒙や学校での取り組みにさらに力を入れる必要があるといえます。

質問６　あなたは、普段どのようにして本を手に入れることが多いですか。

単位：人（）内は%

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		中学1年生		合計		保護者	
1.　買う（買ってもらう）	109	(16.0)	110	(17.0)	125	(19.0)	152	(21.2)	152	(23.4)	200	(30.4)	242	(39.7)	1,090	(23.6)	1,445	(55.7)
2.　友だちから借りる	12	(1.8)	14	(2.2)	15	(2.3)	12	(1.7)	26	(4.0)	27	(4.1)	73	(12.0)	179	(3.9)	175	(6.8)
3.　学校図書館で借りる	272	(39.9)	224	(34.6)	240	(36.5)	283	(39.5)	243	(37.4)	241	(36.7)	154	(25.3)	1,657	(35.9)	-	-
4.　学校図書館以外（公立図書館）で借りる	115	(16.9)	86	(13.3)	78	(11.9)	115	(16.0)	72	(11.1)	71	(10.8)	41	(6.7)	578	(12.5)	631	(24.3)
5.　家にある本を読む	167	(24.5)	211	(32.6)	190	(28.9)	153	(21.3)	155	(23.9)	116	(17.7)	99	(16.3)	1,091	(23.6)	318	(12.3)
6.　回答なし	7	(1.0)	3	(0.5)	10	(1.5)	2	(0.3)	1	(0.2)	2	(0.3)	0	(0.0)	25	(0.5)	23	(0.9)
合　　計	682	(100.0)	648	(100.0)	658	(100.0)	717	(100.0)	649	(100.0)	657	(100.0)	609	(100.0)	4,620	(100.0)	2,592	(100.0)



昨年と比較して率の値は変わっているものの、小学生では「学校図書館で借りる」がいちばん多くなっています。やはり子どもたちにとって「本を手に入れる」にはいちばん身近な学校図書館こそが貴重な場といえます。
それを考えると「学校図書館の充実を図る」ことが急務であることが浮かんできます。「学校図書館の充実を図る」とは具体的に言うと「子どもたちにとって魅力的な本をそろえること」ですが、それはけっして単に「子どもが欲しいという本をそろえる」という意味ではなく、子どもがなにか課題を持って本を探したとき、その課題に答えてくれるものでなくてはならないということです。

中学生は「買う(買ってもらう)」がいちばん多くなっていますが、中学生が読みたいと思う本と学校図書館にある本が必ずしも一致していない、ということも考えられます。たとえば今年、女子中、高校生の間で特に人気があった「ケータイ小説」などは学校図書館には置いてありません。また、中学生の男子がよく読む「ハウツーもの」などにも図書館に置いていないものがたくさんあります。

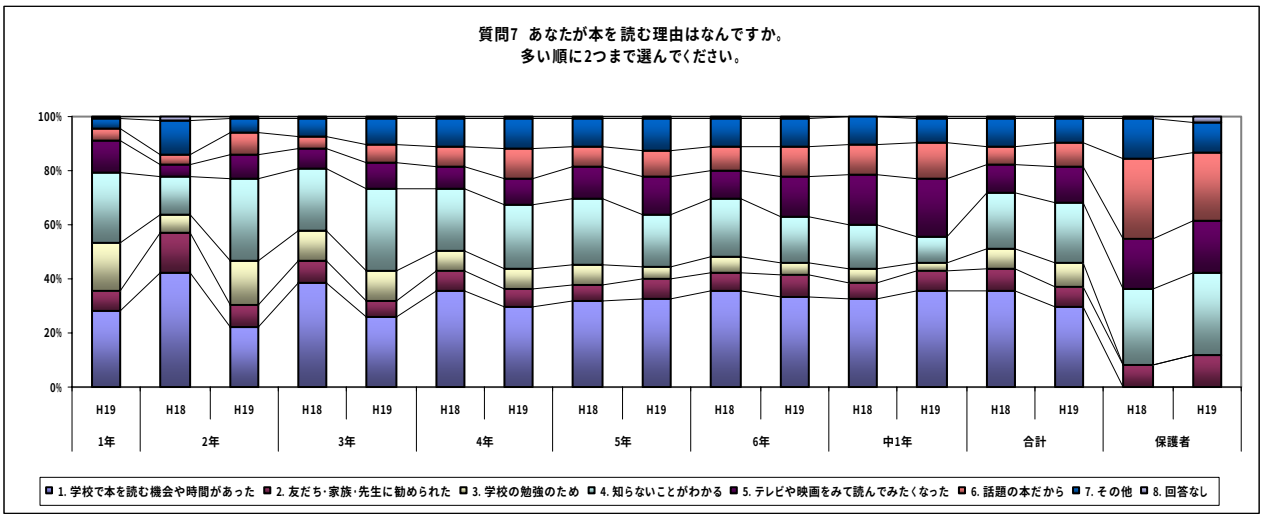
「学校図書館の充実を図る」上で次いで望まれることに「人的配置」があります。「読書に関して相談にのってくれる学校司書や図書協力員が常駐して

いること」が子どもの読書活動推進に大きな影響を及ぼすことはだれもが認識していることです。

質問７　あなたが本を読む理由は何ですか。

単位：人（）内は%

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		中学1年生		合計		保護者	
1. 学校で本を読む機会や時間があった	182	(28.2)	139	(22.5)	164	(26.0)	199	(29.4)	206	(32.3)	211	(33.4)	214	(35.4)	1,315	(29.6)	-	-
2. 友だち･家族･先生にすすめられた	48	(7.4)	49	(7.9)	35	(5.6)	47	(6.9)	47	(7.4)	50	(7.9)	46	(7.6)	322	(7.2)	378	(13.5)
3. 学校の勉強のため	116	(18.0)	98	(15.9)	72	(11.4)	49	(7.2)	29	(4.5)	28	(4.4)	18	(3.0)	410	(9.2)	-	-
4. 知らないことがわかる	166	(25.7)	187	(30.3)	190	(30.2)	164	(24.2)	125	(19.6)	107	(17.0)	58	(9.6)	997	(22.4)	875	(31.3)
5. テレビや映画をみて読んでみたくなった	77	(11.9)	59	(9.6)	60	(9.5)	65	(9.6)	88	(13.8)	96	(15.2)	127	(21.0)	572	(12.9)	524	(18.7)
6. 話題の本だから	30	(4.6)	47	(7.6)	43	(6.8)	72	(10.6)	61	(9.6)	69	(10.9)	83	(13.7)	405	(9.1)	659	(23.6)
7. その他	20	(3.1)	33	(5.3)	61	(9.7)	79	(11.7)	79	(12.4)	67	(10.6)	54	(8.9)	393	(8.8)	305	(10.9)
8. 回答なし	7	(1.1)	5	(0.8)	5	(0.8)	3	(0.4)	3	(0.5)	3	(0.5)	4	(0.7)	30	(0.7)	54	(1.9)
合　計	646	(100.0)	617	(100.0)	630	(100.0)	678	(100.0)	638	(100.0)	631	(100.0)	604	(100.0)	4,444	(100.0)	2,795	(100.0)
7.その他回答 児童･生徒																		
保 護 者																		



低学年ほど「知らないことがわかる」と回答する児童が多いのは、「学ぶこと」「知ること」の新鮮な喜びや意欲が感じられます。学年があがるにつれて学習が自主的なものでなくなってしまうのでしょうか。

次いで多いのが、「学校で本を読む機会や時間があった」ですが、放課後は部活動やスポーツ少年団、塾、習い事など現代の子どもたちは大人が思うほど自由な時間が多いとはいえません。そのような状況を考えると、子どもたちに読書を推進するためにはそのための時間を保証することがまず第一歩なのかもしれません。そういう点からも山梨市内の各小、中学校での「朝読書」や「一斉読書」だけでなく、休み時間や放課後を活用したり、週時程に組み込んだりと全校体制で取り組んでいることが、子どもたちが読書に親しむおおきな理由となっています。

また、高学年、中学生になるにつれて「テレビや映画を見て読んでみたくなった」が増えていますが、やはりマスコミの影響は大きいことが浮かびます。子どもの心を耕し、考える力を身につけてほしいと願う立場から、マス

コミやインターネット業界の良識ある情報提供を期待します。

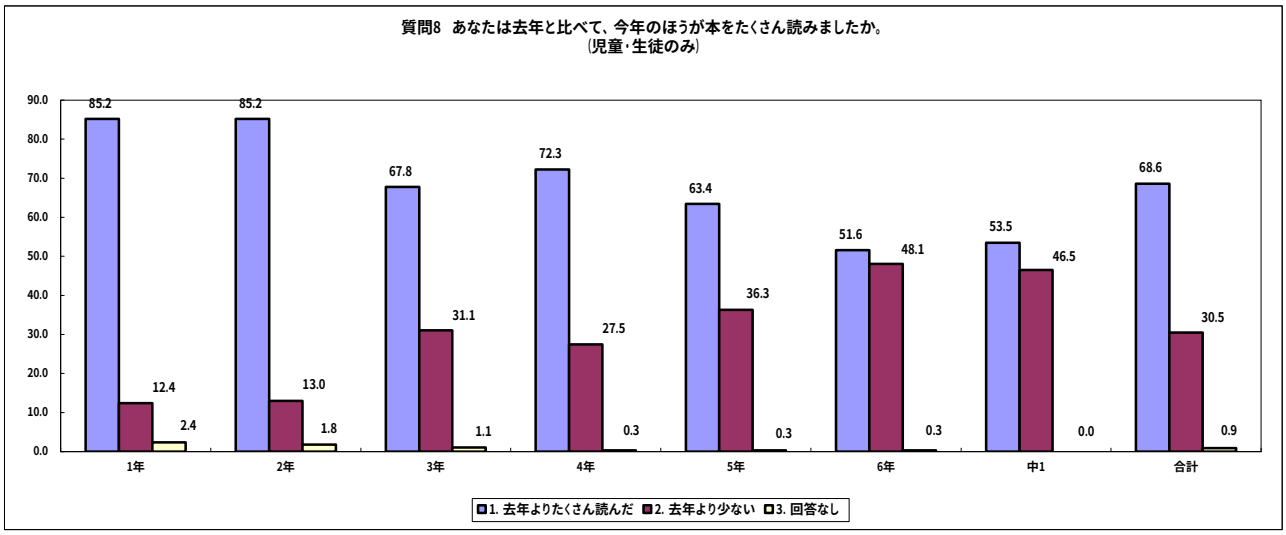
「友だち・家族・先生にすすめられた」という回答は、各校で実施している「ＣＭカード」や図書館便りなどでのおすすめ本が読書のおおきなきっかけとなることをあらわしています。その他の「弟に読んであげたいから」との答えも家庭での幼児期からの読書環境がうかがえる回答です。

保護者のその他に「子育ての参考にしたいから」「自分の心を見つめなおすためのきっかけとなるから」「読書は智の財産を増やし、学ぶことは楽しいから」との記載がありますが、単におもしろいからとか、趣味だからではなく、「読書」に対して心の内なる成長を求めていて大変深く、前向きな姿勢がうかがえます。

質問８　あなたは、去年と比べて今年のほうが本をたくさん読みましたか。

単位:人 ( ) 内は%

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		中学1年生		合計	
1. 去年よりたくさん読んだ	317	(85.2)	288	(85.2)	249	(67.8)	284	(72.3)	222	(63.4)	180	(51.6)	185	(53.5)	1,725	(68.6)
2. 去年より少ない	46	(12.4)	44	(13.0)	114	(31.1)	108	(27.5)	127	(36.3)	168	(48.1)	161	(46.5)	768	(30.5)
3. 回答なし	9	(2.4)	6	(1.8)	4	(1.1)	1	(0.3)	1	(0.3)	1	(0.3)	0	(0.0)	22	(0.9)
合　計	372	(100.0)	338	(100.0)	367	(100.0)	393	(100.0)	350	(100.0)	349	(100.0)	346	(100.0)	2,515	(100.0)

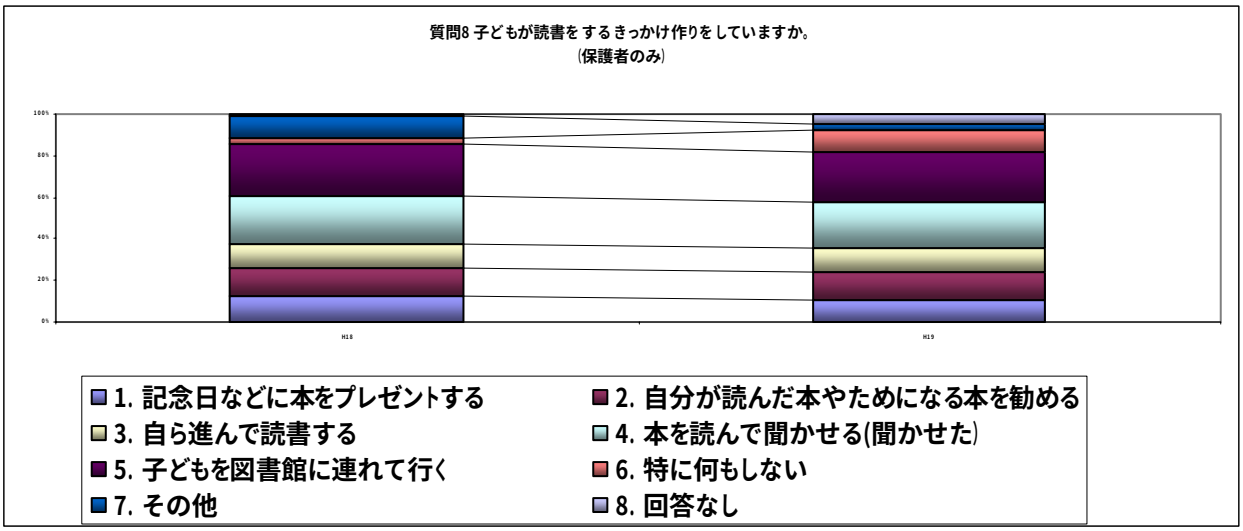


すべての学年で「去年よりたくさん読んだ」が「去年より少ない」を大きく上回っています。学年があがるにつれてその率は減りますが、高学年になるにつれて、学校での児童会活動、部活動で中心的存在となり、学校生活が忙しくなることや、学習塾や習い事などで読書量が減ることは理解できることを考えると、「去年よりたくさん読んだ」ことは立派であるといえます。

質問８　子どもが読書をするようなきっかけ作りをしていますか。
（保護者のみ）

単位：人（）内は%

	保護者															
1.　記念日などに本をプレゼントする	331	(10.7)														
2.　自分が読んだ本やためになる本を勧める	418	(13.5)														
3.　自ら進んで読書する	354	(11.4)														
4.　本を読んで聞かせる(聞かせた)	687	(22.2)														
5.　子どもを図書館に連れて行く	724	(23.4)														
6.　特に何もしない	328	(10.6)														
7.　その他	103	(3.3)														
8.　回答なし	149	(4.8)														
合　　計	3,094	(100.0)														
7.その他回答 保　護　者																



「子どもが読書をするようなきっかけ作りをしていますか」という問いには８０%以上の家庭で何らかの働きかけをしています。そのなかで多いのが「読み聞かせ」や「図書館にいっしょに足を運ぶ」との答えです。また、「自分が読んだ本やためになる本を薦める」も多く、自らの読書経験をわが子に伝えようとする姿が浮かんできます。ただ、親はついいわゆる名作と呼ばれるものや、教訓めいたものを薦める傾向もあるようです。しかし、「命の尊さ」をテーマにしたものなど、親が伝えたい思いを託した本を薦める点もうなづけます。親の意識で子どもの読書への意欲が左右されることを考えると家庭への啓蒙の重要性がさらに浮かんできます。

また、親が薦める本に多くの「絵本」が挙げられていることにも注目です。いま大人たちの間で静かな「絵本ブーム」が起こっています。子どもといっしょに絵本を開くゆとりが望まれます。

質問９　質問８で１と答えた人だけ答えてください。それはなぜですか。
(小学生)

「たくさん読んだ」理由として、小学生は「字が読めるようになった」や「調べたいことがたくさんあった」など、子どもの「知りたい、わかりたい」という知的好奇心は読書に向かわせるのだなあと実感する回答です。

また、「多読者賞のしおりがほしかった」や「今年は賞状をもらいたいから」など子どもらしい発想も読書に興味を持つ大きなきっかけとなり、有効であると感じます。

反面、「ケータイ小説が出始めたから」と答える小学生もいますが、内容によっては必ずしも喜べないとのが実態です。今後若ものたちのニーズによりケータイ小説の出版が増えていくことが予想されることを考えると、学校図書館での子どもたちへの指導を検討しなければならない課題でもあると思います。

ここでも「朝読書があるから読むようになった」と朝読書効果が見えます。

(中学生)

中学生は「恋愛系の本が好きになり時間さえあればいつでも読んでいたい」「ともだちからすすめられて借りて読んだら本がもっと好きになった」「厚い本やシリーズの本をあきらめないで読めるようになり、続きが早く読みたいと思ったから」「成長して難しい本も読めるようになった、幅が広がった」など小学生と比べると一歩進んだ理由を挙げています。

また、「国語の点数が悪くて本を読めば読解力が上がるかなと思って読んだらたくさん読めた」「勉強や家庭学習に役立つし中学生は部活でやるスポーツの本が図書館に置いてあるから」など目先の事柄とはいえ目的を持った読書をする傾向も見えます。さらに一歩進んで子どもたちが「今後の人生に影響を与えるような本に出会う」ことができたら、図書館教育に携わる者にとっても大きな喜びです。

もちろん、「朝の読書で本に興味を持って家でもよく読むようになったから」「朝読書を毎日しているから」「国語の時間で本の紹介があったから」など学校からの働きかけを挙げている記述も多くあります。

質問１０　質問８で２と答えた人だけ答えてください。それはなぜですか。

(小学生)

「サッカーやスイミングなど習い事や塾が増えて暇がなかった」「学校行事や委員会活動などの仕事やテストがあり本を借りる時間がなかった」「休み時間借りようとしてもみんなと外に行ってしまうから読めない」「外で遊ぶことが多いから」などからは、活発で積極的な学校生活が浮かび上がってきます。

また、「厚い本、長い物語などを読むようになったから冊数は減った」との回答も納得できます。

(中学生)

「勉強や部活とかで忙しくなり(朝読書のときしか)本を読む時間、機会がないから」「休みの日にも部活などがあり、読書をしたり、図書館に行っている時間がない」「疲れて帰ってから読む気が出ない」「去年より長い本(字の多い本、厚い本)を読むようになったから(でも内容は濃いものになった)」「小学校では先生が授業のときに連れて行ってくれたから借りる機会が多かった」「小学校のときは図書室にも行けたけど、下級生の立場だと図書室に行きにくく、今は行くことがないから」など子どもながらのまた１年生ならではの理由を挙げている子もいます。

質問９　子どもを読書好きにさせるために保護者として何が必要と考えますか。

(保護者)

多くの保護者が「本が常に身近にある環境をつくる」「幼いころから読み聞かせをしたり、読み聞かせの会などにいっしょに参加をする」「まず親自身が本を好きになって、楽しんで読書をする姿を見せ、積極的に読書の世界に導くことが必要である」「時間があったらでなく、時間をつくって読んでやる親の心構えが必要かつ大切だと思います」また、「子どもが興味を持って本の話をしたときなど、聞き流さないようにしなくてはいけないと思います」などに見られるように「親の読書への姿勢、理解、環境づくりが大切である」と考えています。

質問１０　大人も子どもも含めた「読書活動」全般についてご意見、ご感想をお書きください。

(保護者)

「朝読書の実践をうれしく思います。テレビやゲーム、ＩＴで得る情報や刺激が多い中で読書をとおして想像の世界が広がり、心の中に新しい世界観が広がっていいと思う」「読書量の不足は単に知識量の減少につながるだけでなく、高校生くらいになってからのコミュニケーション能力の乏しさにつながると思います。幼少時から多様な価値観にふれることは非常に大切だと思います」「自分が子どものころどきどき、ワクワクしながら読んだ同じ本を今度はわが子は読み、自分と同じような感想を持ったことに感動しました」などほとんどの家庭で読書推進に関して大きな理解を示し肯定的な意見を書いています。

「私が子どものころあまり本を読まなかったことを後悔しているので、学校で朝読書や一斉読書などで本に親しんでいる姿を見るとうれしいです」など読書を通じて自分の読書を振り返ったり、子どもの成長を実感したり、読書への意識・関心の高さがうかがえます。しかしわずかではありますが「特に何もしなくても読みたい子は勝手に読むと思う」という意見もありました。

そのような中、「毎月、年齢にあった絵本を一冊ずつ送ってもらいました。我が家ではけっして安い金額ではありませんでしたが、ほめられることのない自分の子育てのなかで、たくさんの絵本を読んであげたことが唯一自信を持てることです。今ではほとんど見ることもなくなった１冊１冊も子どもが親になったときに譲ってやり、その子どもたちにも読んでほしいと思います。親子で同じ本を読める幸せを持たせてあげたいです。」というコメントは、絵本を読むおかあさんを囲んで楽しそうに笑ったり、時には涙を流したりするあたたかな家庭の姿が浮かび、これこそが子どもの読書推進活動の原点なのではないかと考えます。